

# SORA

web magazine 2015.mar. vol.51

Travel

Indonesia

# Maratua

MAP  
CLICK!

バラクーダの巨大な群れを求めて  
インドネシア・マラトゥアへの旅

Photo & Text : Yasuaki Kagii

かつては、たくさんダイバーが訪れた実力の海。  
マンタのサンガラキ島、ジェリーフィッシュレイクのカ  
カバン島、バラクーダの群れのマラトゥア島。  
この3島を一度の旅で、満喫できるリゾートステイの  
ダイビングがあることをご存じですか？  
マラトゥア環礁にあるナブコアイランドリゾートに滞  
在して、まだ経験したことのない素晴らしい海へ！

tsumi-shima tsumishima.com  
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ  
www.wtp.co.jp

© 2015  
World Tour Planners Co.,Ltd.  
All Rights Reserved.



## すべてはこのナチュラル派リゾートから始まる

青い海に浮かぶナブコアイランドリゾート。天然の岩を活かしたデザインのレセプション。海に突き出したバンガローは10棟。こじんまりとしたダイビングセンター。自然をできるだけ残したまま、それでも不自由のないリゾートライフを満喫できる。朝日、夕日を大切にできるナチュラルアイランド。

海の中のもうひとつの宇宙

# Indonesia マラトゥア Maratua Travel

まるで巨大な生き物が  
海の中でうごめいているようだった



マラトゥアのポイントで最も有名なのが、ビッグフィッシュカントリー。通称「B. F. C」。外洋に面したチャネルでのダイビングで、ここでは大きなバラクーダの群れに遭遇することができる。エントリーしてリーフを右手に進んでいく。チャネルに近づくと流れを感じてくるので、ガイドさんの後ろにくっついていくのがお薦め。同じ水深でダイビングをすると上手く強い流れを避けることができる。チャネルの水深25mくらいに到着すると、カレントフックを海底にかけて、凧のような状態になる（カレントフックがなければ、ダイビングセンターで無料で貸してくれる）。そして、周囲を見上げていると、まるで惑星のような大きな球体が、青い海の下から現れてくる。その球体を見上げるのもいいが、潮の流れが緩やかならば、中性浮力を利用して、その群れに大接近する。彼らの行く手で待っていると、大きなバラクーダの群れがどんどん近づいてくる。最初は2Dで見えていた群れは、やがて3Dとなり、圧倒的な迫力で迫ってくる。間近で見るバラクーダは1匹1匹が大きくて、他の魚とはまた違った威圧感がある。そして通り過ぎていく彼らを眺めると、寂しいと思うと同時に、出会えた興奮が体中にみなぎる。現地の人は、バラクーダを食べると体調が悪くなると、漁の対象ではないらしい。なので、この名物バラクーダは安心してこの海をわが物顔で泳ぐことができるのかもしれない。最近では、このポイントで、以前は見なかったメジロサメやネムリブカなども現れるようになった。ポイントのポテンシャルもどんどん上がっている B.F.C。潜るたびに大きな興奮が待っている。潜り終えた後、ボートの上から川のように流れる水面を見つけた。





リゾートからカカバン島までは約45分。エントリーしたのはマンタポイント。リーフを右手に見ながら、潮流に乗っていく。常に潮の流れがあるのか、大きなスリバチカイメンの成長の仕方が潮の流れに押されて変に育っている。ムチャギも全て同じ方向になびいているので、全てがゆがんだ世界のように見え、不思議な空間に飛び込んだのだと感じた。お魚の姿はまるで普通だったので、安心。オキアジの大群に囲まれ、ナンヨウツバメウオの群れに迎えられた。バラクーダには会えなかったけど、十分にコーナーダイブを楽しむことができた。そして、コーナーを曲がると、次はカカバンウォールというポイント。垂直に落ち込む壁に色取り取りのカイメン、ホヤが群棲し、景色が一変する。オレンジ色、青色、本当に色鮮やかでこの海の豊かさを知った。クダゴンベやウミウシなどもいる。そして最後、安全停止の時には、すごいボリュームのサンゴ礁が待っていた。1ダイブで色々楽しめる素晴らしいポイントだった。

Indonesia マラトウア  
**Maratua**  
Travel

## カカバン島&サンガラキ島へのデイトリップ!

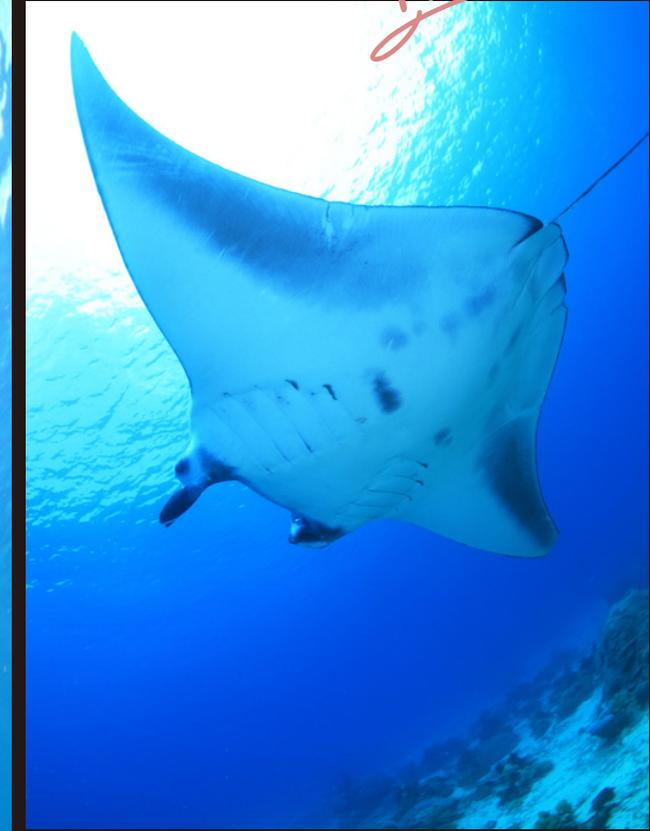


ダイビングの後、島の栈橋に向かう。そこから島の中にあるジェリーフィッシュレイクに向かう。ここでのポイントは、フィンを持っていかないこと。フィンでクラゲを傷つけてしまう可能性があるのだというルールだ。木製トレイルは、まっすぐ湖に続いている。ただ勾配があるので、大きな水中カメラを持った方は少し体力が必要かも。今回の取材時は土曜日だったこともあり、地元の子供たちなどで賑わっていた。ゆっくりエントリーする。マングローブの木漏れ日の下に海藻が生えていて、そこにクラゲが乗っかっている。意外と

## ロマンティックな水中景色に恋するカカバン島のジェリーフィッシュレイク



みんな休んでいる感じ。時折、「よっこいしょ」と言う感じで、ふわ〜と浮き上がる。その姿がまた可愛い。クラゲの数は多いが、この子たちは、いつか一斉に泳いでくれるのかな?(笑) 元気よく泳いでいるクラゲを見つけて、水面近くで撮影。ここにしかない景色を写し込んだ。



## サンガラキ島のマンタポイント！

カカバン島を離れ、次の目的地は、お隣のサンガラキ島。移動時間は約20分。サンガラキは、マラトゥア島、カカバン島に比べると少し小ぶりなサイズ。島にボートを近づけると、すでに水面下にはマンタが泳いでいる。マンタが良く集まっている箇所を見定めて、ガイドさんの指示でエントリー、水深7mの海底にカレントフックをかけて、頭上から現れてくるマンタを優雅に観察。潮の流れはそれほど早くない。時折、さっと降下してくるマンタがいる。その時に接近できる。お腹の白いマンタ、黒いマンタ。割合は白が多いけど、黒も普通にいるので、黒の特別観がない。約40分ほど眺め、少し移動。タテジマキンチャクダイなどがあるクリーニングステーションを眺めながら、浮上を開始。そうすると、「どこに行くの?」と言わんばかりに、マンタが交互に何匹かやってきた。同じグループで潜っていたドイツ人は、最後まで慌ててカメラを向けていた。



2本目のダイビング。ボートを移動させると、無数のマンタの影が水面に映る。ボートを寄せても逃げる様子を見せない。気が付くと、周囲は1本の潮流ができていて、その流れに逆らうようにマンタが大行進していた。大きな期待を胸にみんなで飛び込む。潮の流れが意外に早い。目で観察するだけならば7mの海底に居るのも良いが、中層に浮かびながら、泳いでくるマンタは撮影できないと判断して、私は、ガイドにジェスチャーで「スノーケリングに変更する」と伝えて浮上した。待っていたボートに乗って、潮の上手に。エントリーしてさーっと流されながら行くと、大きなマンタが口を開けて泳いでいる。周囲を見ると、マンタが食べる黒い粒のプランクトンがたくさん湧いている。このプランクトンをまるで掃除機で飲み込むようにマンタたちは捕食しているのだ。ストロボを発光させて接近しているせいか、私を見つけるとすぐに進行方向からずれる。ぎりぎりまで待って撮影すると意外とマンタに寄れた。約100m以上、潮の流れに身を任せていると次から次へとマンタがやってくる。さすが、サンガラキ!と納得のひと時だった。ダイビングを終えたドイツ人ダイバーが、「マンタスティック!」と上がってきた。「イエーイ! マンタスティック!」

Indonesia マラトゥア  
**Maratua**  
Travel



マンタスティック!





# マラトゥア環礁のダイビングポイント

Indonesia マラトゥア  
**Maratua**  
Travel

ダイビングスタイルは様々。すべてポートダイビングだが、1本ごとにリゾートに戻ってくるスタイル、1日かけて遠征するカカバン島&サンガラキ島へのデイトリップ・スタイル、また環礁の北端・南端までの約20分ほどのポイントへ行く場合は、午前中に2ダイブ行い、そしてリゾートに戻ってくるスタイルがある。主流は、マラトゥア環礁の外洋のポイントで5分~10分ほどのポイントに行くことが多い。その場合は、ダイビング毎にリゾートに戻ってくるので、何かと快適だ。およそのダイビングスケジュールは、午前9時、11時半、午後3時の3本になっているが、潮流などの関係で時間変更がある。また、サンセットダイブ、ナイトダイブなども開催される。

## Jack point

ジャックポイントは、ドロップオフのウォールダイブを楽しむポイント。壁沿いにはスミレナガハナダイ、ウミウシなどのカラフルな生き物を見つけることができる。また壁の隙間にカメがいることが多く、1ダイブで8匹ほどのカメとご対面した。サンゴ礁も豊かで、遠くの地の海中を覗く価値を教えてくれる。

## Batu kangon

バツ・カンゴンはチャネルの中に入った場所にある潮の影響を受けにくいポイント。垂直に落ちる壁は、ソフトコーラルやヤギが群棲し、カラフルな景観が続く。水深5mのリーフの上も、様々な種類のサンゴが群棲し、そこに舞うハナダイなどが気持ち良い。



tsumi-shimo  
ダイバーの夢をつまみあげていく



# 垂直ドロップオフ&緩やかなドロップオフ

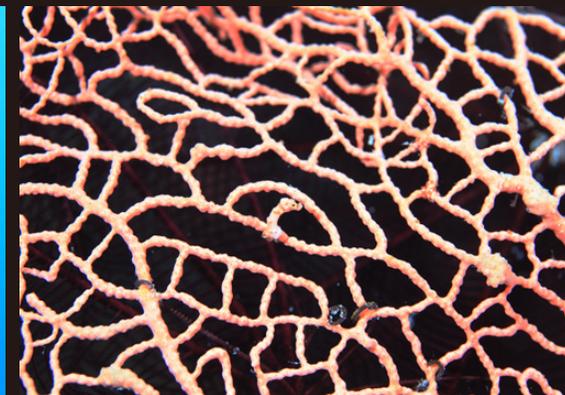
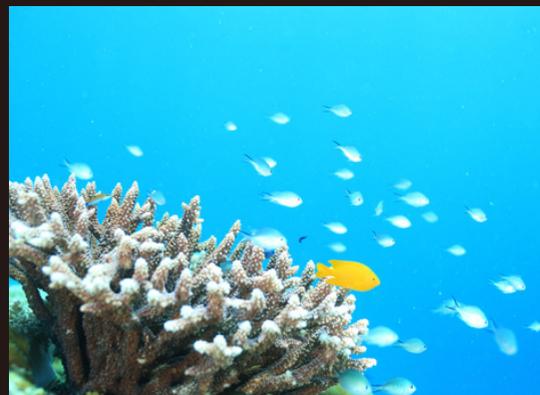
## Turtle bay

タートルベイは、ジャックポイントの隣のポイント。ジャックポイントに比べるとドロップオフの傾斜が緩い。ウミウチワなどが連立するなかカクレマノミやウミウシを観察する。名前ほど今回はカメを見ず、ジャックポイントの方が多いかも（笑）。



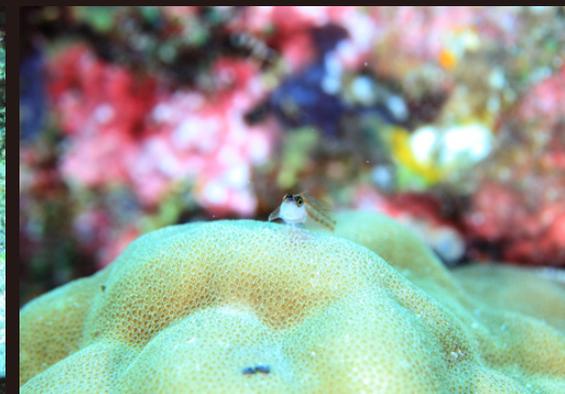
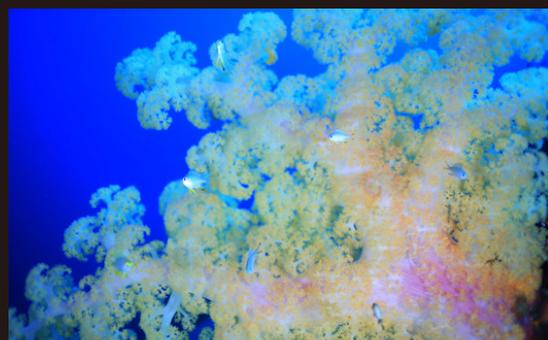
## Midnight snapper run

ミッドナイトスナッパーランという面白い名前のポイント。真夜中にフエダイがたくさん泳いでいるのかな？ 並ぶ外洋の中でもかなり傾斜が緩やかなポイントで、リーフと砂地が混在する。レオパードシャークやアカエイなども見られるらしいが、今回はガイドさんにピグミーシーホースを見せてもらった。他のポイントでも何個体が確認しているらしい。



## Leo point

レオポイントは水深30mまでサンゴが続くポイントで、その成長の範囲に驚く。緩やかな傾斜のドロップオフで、カムリブダイやカメなど見られる。美しい造形のサンゴ+お魚が多いので、被写体に事欠かない。





## Light house

長細いマラトゥア環礁の北端にあるライトハウス。ドロップオフ沿いを潮の流れの乗って進んでいくと、イソバナやウミウチワなどが連立する。ブルーウォーターでは、トサカハギやツムブリの群れが回遊してくる。華やかであり、またとても賑やかなポイントでもある。

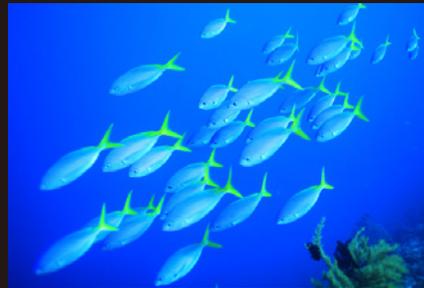
Indonesia マラトゥア  
**Maratua**  
Travel



## マラトゥア環礁北端の美しいポイント

## Gorgonzola

ガイドー押しのポイント、ゴルゴンゾーラ。ドロップオフの壁一面は色彩豊かなイソバナ、ソフトコーラル、カイメン、ホヤなどで彩られている。確かに手付かずの海の様子。そして、リーフトップのサンゴ礁は様々なサンゴのフォーメーションからなり、なんとも美しい。また是非潜りたいポイント候補のひとつだ。



# トワイライトダイブでニシキテグリの放精放卵シーン

夕方5時から始まるサンセットダイブ。目的は、ニシキテグリの放精放卵シーン。ポイントはリゾートのすぐ傍のインサイドリーフ。ガイドに導かれ、水深7mのサンゴの周りで待っていると、サンゴの隙間にニシキテグリの姿がちらほら。

日が暮れ出し、周囲が暗くなり始めると、オス、メスのペアがゆっくり浮上し、放精放卵を行った。その日は、その一回限りだったけど、白い卵が海中に放出されるのを確認。また新しい命が誕生した。

Indonesia マラトゥア  
**Maratua**  
Travel

tsumi-shima  
ダイバーの夢をつまみあげていく島



# ナチュラル派リゾート・ナブコアイランドリゾート

Indonesia マラトゥア  
**Maratua**  
Travel

2001年に現ドイツ人オーナーがダイビングをして浮上した時に見た島を見て、このナブコアイランドリゾートを作ったとのこと。約13年経過するが、ナチュラルテイストの施設は褪せることなく、リゾートとしての抜群の雰囲気を持っている。海沿いに6つのダブルバンガローとシングルバンガロー、そして島の中のガーデン内に2つのダブルバンガローがある、客室

は17ルームで、収容人数は34名。これからもバンガローを増やしていく計画はなく、少人数のゲストでリゾートライフを楽しむことができる。海を一望できる客室には、エアコン、ファン、冷蔵庫、ホットシャワー、トイレを完備。海が見えるレストラン、バー、そして島の中には、ギフトショップとオフィスがあり、この周辺では無線LANを使用できる。



## ダイビングセンター

玄関口の桟橋にあるダイビングセンター。お店はそれほど大きくないが、コンパクトに使い勝手よくまとまっている。2人のヨーロッパインストラクターと3人のローカルガイドの5人制で、シーズンによって多少編成が異なる。ダイビング専用ボートは3隻で、レベルやリクエストによって分けられる。基本的に、1グループ6名までで、1人のガイドが同行する。ナイトロックスを完備。インストラクターのドリスは「ポイントはフレキシブルに変えていくので、日本人ダイバーの方、『ビッグフィッシュカントリー』など、どんどんリクエストしてください!」とのことでした。





# Indonesia マラトゥア Maratua Travel

Lunch	
* Lobia Salad	→ 6.00
* Rosmarin Soup	→ 6.00
* Grilled Fish with mixed Seasonal salad	→ 8.00
* Malaysian Fried noodles	→ 7.00
* Sandwich any kind	→ 6.00
* Mixed Fresh Fruit	→ 6.00

## お料理はどれも美味しいよ!

海を一望できるレストランでの食事もしみのひとつだった。朝食は、フルーツプレート、フルーツジュース、パン、卵料理かナシゴレンなどのインドネシア料理を1品、コーヒー、紅茶。ランチは朝食後に選択。サラダ、スープの前菜から1品、魚、肉料理、またはヌードルなどのメインを一品、そしてフルーツなどのデザート。ディナーはコース料理で、前菜、スープ、メイン、デザートまたは、小皿がたくさんインドネシア料理など多種多様なメニューで楽しませてくれる。

